

第24号

群馬県在宅保健師「さちの会」

会報 さち



視察研修（群馬県医療的ケア児等支援センター「やっぴん」前）

会長挨拶

群馬県在宅保健師「さちの会」会長
武政 礼子



令和5年度の会報「さち」第24号の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

私は5月の定期総会で会長に就任いたしました武政と申します。よろしくお願いたします。

「さちの会」の設立について、創刊号に「目まぐるしく変化する社会情勢の中で、国が取り組もうとしている課題が深刻化しており、それに対して「さちの会」がはたす役割・期待から、県国保連合会、医務課、看護協会の指導・助言を得て設立した」と記されております。それから24年間、「さちの会」はその目標に向かって努力を続けてまいりました。目指すのは、保健師の住民の方々に対する健康支援の方法を活用し、「生涯現役」であり、必要になった時には介護保険を活用し、生き生き過ごすということだと思います。これからも、そのための活動を全会員で考え、取り組んでいく役割を改めて感じました。

さて、今年度の事業の推進につきましては5月8日に、新型コロナウイルス感染症が感染症法の第5類に移行されたことにより、感染に配慮しながら、全ての事業を実施することができ

ました。大変有難く感じました。

令和5年度の定期総会は、昨年同様に会員中心に開催いたしました。第1回研修会は総会同日に開催し、令和4年度都道府県在宅保健師等会全国連絡会役員会作成DVD「コロナ禍を踏まえた保健師等による災害対応・市町村支援等について」（自治医科大看護学部春山早苗教授の公演）を視聴しました。

視察研修は、医療的ケア児等支援センターの設置と新たな体制について、群馬県立小児医療センターの3人の担当者から詳しく学ぶことができました。

第2回研修会は、若年性認知症、新薬について、認知症の人へのかかわり方等、専門医として幅広い活動をされている宮永和夫先生に講演をしていただきました。これからの地域活動の中で役立てていきたいと思っております。

会員の皆様には、会への出席及び御意見等よろしくお願いたします。

最後になりますが、国保連合会の皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

令和5年度 群馬県在宅保健師「さちの会」総会

期日 令和5年5月22日（月）午後

場所 群馬県市町村会館

出席 20名

昨年度に引き続き、集合により定期総会を開催しました。議長に山野紀美江さんを選出し、昨年度の事業及び決算の報告、今年度の事業計画及び予算案、役員改選について承認を得ました。

総会終了後は、地区ブロック別の懇談会で情報交換や今後のブロック活動について意見交換をしました。



地区ブロック別懇談会

群馬県在宅保健師「さちの会」第1回研修会

期日 令和5年5月22日（月）午後

場所 群馬県市町村会館

出席 20名

講演 「コロナ禍を踏まえた保健師等による災害対応・市町村支援等について」
(DVD視聴)

講師 自治医科大学看護学部教授

春山早苗氏



第1回研修会受講の様子

参加者感想

西毛ブロック 市毛 千鶴子

内容は、発災後の慢性期対応の保健活動と災害が人々の健康に及ぼす長期的影響への支援について学び、これら慢性期の活動が今後、この地域で健康づくり活動の推進として整備されていくことが大事とのことでした。

幸いにして群馬県は自然災害が少ないので私は今まで慢性期活動の経験がなく、外部支援者として新潟県と福島県へ急性期災害対応として派遣されました。急性期は二次的健康被害を防止したり、リスクを有する人への働きかけが主で、個別訪問や避難所、地域でのサロンの場で

支援を行いました。その地域でも相互扶助の精神で社会全体の人間関係の豊かさを感じました。隣県からの外部支援に少しでも地元の人達が不安軽減につながればとの思いでした。

3年前、コロナ禍で専門職のネットワークづくりが整備され「IHEAT」が保健所体制強化のための仕組みとして地域保健法に位置づけられました。災害に備えるために平時からのネットワークづくりが大事で、少しでも平時から地域の保健活動との関わりを持っている「さちの会」は大きな役割を果たしていると思いました。

群馬県在宅保健師「さちの会」第2回研修会

令和6年1月29日（月）午前

場所 群馬県市町村会館

出席 会員27名 市町村等24名

講演「認知症の現状と治療」

講師 南魚沼市立ゆきぐに大和病院

認知症疾患センター長 宮永和夫氏

参加者感想

令和5年度在宅保健師「さちの会」
第2回研修会に参加して

東毛ブロック 尾池 久美子

令和6年1月29日に開催された研修会に出席しました。講師は以前、群馬県精神保健センター（現在の名称は群馬県こころの健康センター）の所長であり、群馬県若年認知症家族の会の設立や運営にご尽力いただいた宮永和夫先生でした。現在は南魚沼市立ゆきぐに大和病院事業管理者であり、お忙しい中講師を引き受けていただいたそうです。

「認知症の現状と治療」というテーマでご講演をいただきました。若年認知症がご専門で冒頭、若年認知症の歴史や有病率等の説明がありましたが、若年認知症の実態を正確に把握するには少し難しいという印象を受けました。その後は認知症の診断、治療や地域支援体制等の話



第2回研修会受講の様子



講師の宮永氏

があり内容は多岐にわたりました。特に治療については最新治療薬である「レカネマブ」という原因物質の除去を狙った薬が承認となり認知症治療が新たな段階に来たのかなと思いましたが、早期のアルツハイマー患者が対象であり、薬剤費が高いなどの課題もあることが分かりました。

また令和5年6月に「認知症基本法」が制定され、益々認知症への理解や共生社会の構築が必要であると理解できました。私たち「さちの会」会員も地域で暮らしている認知症の方の支援が少しでもできればと思いました。また、認知症は我が事の問題なので1時間半という短い時間でしたが、認知症について理解が深まり有意義な研修会でした。

視察研修会

期日 令和5年11月28日（火）

場所 群馬県医療的ケア児等支援センター
「やっほ」

出席 17名

群馬県立小児医療センターにて地域医療連携室、母子保健室、群馬県医療的ケア児等支援センターからの講義後、令和5年6月に開所した医療的ケア児等とその家族や関係者の相談窓口



となる群馬県医療的ケア児等支援センター「やっほ」を視察しました。昼食を伊香保上州物産館で摂り、道の駅まえばし赤城見学、移動のバスでも近況を報告、視察後の感想を共有し有意義な時間を過ごしました。



バスの中で近況報告



群馬県医療的ケア児等支援センター「やっほ」視察の様子

参加者感想

視察研修に参加して

東毛ブロック 須田 由美子

視察研修では、担当職員の方々から講義があり、その後医療的ケア児等支援センター「やっほ」の視察がありました。

医学の進歩を背景として長期入院治療後、吸引の必要な児童、人工呼吸器や胃ろう等を使用し医療的ケアが日常的に必要な児童が自宅療養に移行しています。その方々の支援に関する法律が令和3年6月公布、同年9月に施行されました。群馬県では令和5年4月医療的ケア児等支援センター「やっほ」を小児医療センターに

設置、同年6月開設されたとの事でした。相談支援、支援体制の整備、家族同士の交流会等活动されているとの話を聞き、タイムリーな視察研修でした。在宅で医療的ケアの必要な児童のいる家庭にとって相談、支援が受けられる拠点ができた事は大きな安心感が得られると感じました。

現役時代の今から37年前、桐生市に1人のダウン症児が生まれ、母親から電話があり直ぐ家庭訪問し、その後保健師が関わっていた6家族でサークルを立ち上げ、小児医療センター等の協力を得ながら日本ダウン症協会群馬支部に発展し活動しています。なつかしく思い出された研修会でした。

保健師等研修会（国保連合会主催研修会への参加）

期日 令和6年3月6日（水）

場所 群馬県市町村会館

出席 会員12名・市町村63名

研修 「やる気を引き出し、効果をあげる保健指導の実践」

講師 国立行政法人 国立病院機構京都医療センター
臨床研究センター 予防医学研究室
室長 坂根直樹 氏



研修会場にて参加の様子

参加者アンケートより

- ◆「4つの性格タイプで導く」とてもわかりやすく、自分の性格と重ね楽しく受講できました。
- ◆リモートの研修会であったが、講師との距離を感じることなく楽しく聞くことができました。

ブロック活動報告

より楽しい寸劇を目指して

中・北毛ブロック世話人 佐々木 かほる

令和5年5月新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類になり、停止していた寸劇（健康劇）の依頼もポチポチ入るようになりました。今年度は最終的に8回上演し、依頼先は前橋市内のいきいきサロン、長寿会などでした。

どの地区でもとても受け入れがよく、台詞を忘れた場面でも参加者から声掛けや拍手など両者一体となって穏やかに楽しく上演することができ、地域の協力を感謝しています。

その他の活動として、昨年の寸劇のパネル作成に引き続き、今年度はシナリオの見直しに着手しました。劇の大筋は変えずに相手に伝わり



やすい言葉、態度など検討しました。演目が3種類あるので3グループに分かれて話し合い、何度か全体で検討しました。

今後、この寸劇を継続するために「さちの会」に若い会員の入会をどう勧めていくかが課題です。

西毛ブロック活動

西毛ブロック世話人 鬼形 イシ子



新型コロナが発生し、世界及び日本中が対応に追われる年月でした。やっと下火の兆しが見え始め、人々が動き出せるかと思った矢先に、インフルエンザが流行し出し西毛ブロックの活動も出来ないままになっていました。

コロナが5類に下げられ、地域の行事、祭り等が開催されるようになり、西毛ブロックにも桜の開花する3月に要請があり、手指の体操や誤嚥性肺炎予防等を実施する事が出来ました。

6年度は、感染症等に注意しながら活動していきたいと思います。

ひまわりに癒され オペラでリフレッシュ

東毛ブロック世話人 尾池 政江

今年度は6月13日に有志で集まり近況報告しながら今年度の活動について日程や内容を相談しました。また、7月には桐生地区のキャラバンメイト連絡会の事務局より連絡があり、地域のふれあいサロン開催に対して協力依頼がありました。打ち合わせの中で昨年のフレイル予防の研修内容がサロンの中で紹介できればということで川島さんに担当していただきました。そして、10月1日（日）には昨年散策したみどり市笠懸町の鹿田山の東側に広がるひまわり畑の中を情報交換しながら歩きました。私たちの背丈ほどでかわいい花をつけたひまわりに癒

されました。そして、昼食後は童謡の父と言われた石原和三郎没後100年記念事業の一環として開催されたオペラ「御代に花咲く～石原和三郎が生きた時代～」をながめ余興場にて鑑賞しました。



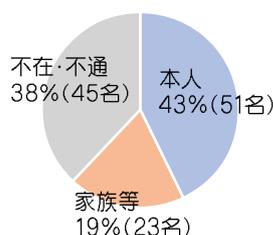
特定保健指導利用勧奨事業

この事業は、国保連合会から委託を受けた「さちの会」会員が市町村へ行き、特定保健指導対象者へ電話による利用勧奨を行うものです。特定保健指導実施率の向上を目指し、令和5年度は板倉町で実施しました。会員は、事前打ち合わせの後、特定健診の結果表をもとに対象となった住民に電話をかけ、検査値の見方を説明したり、普段の生活習慣を聴いたり、相手に合わせた丁寧な対応により、利用希望に繋げることができました。来年度も実施する予定ですのでご協力よろしくお願いいたします。

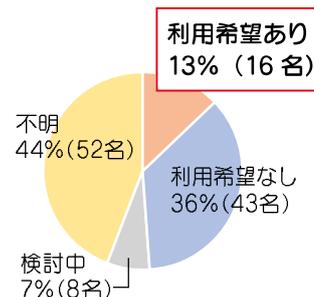
【板倉町実施報告】

- 派遣会員数 3名
- 実施期間 令和5年10月18・19日
11月20日
- 対象者 令和5年度特定健診受診者で、
特定保健指導対象になった方
うち119名
- 架電件数 157回

電話対応者



利用勧奨結果



会員の感想

東毛ブロック 竹内 昌代

10月から11月の3日間、板倉町の特定保健指導利用勧奨の業務を正田良枝さんと尾池久美子さんと3人で分担して行いました。役場事務室に隣接した相談室で対象者に電話をしましたが、担当者の席が近くて連携がしやすかったです。また、担当者が資料をきちんと整えてくださり、スムーズに電話をかけられました。

対象者には事前に保健指導利用勧奨の通知が届いていたためか、電話をかけた時の反応は概ね良好でした。既に実践している食事や運動のことなどを話してくださる方もおり、日頃の役場職員と住民の方との関係の良さも感じました。電話をかけたことにより数名の方が参加を希望され、うれしく思いました。参加できない方にはお身体を大切にいただけるようメッセージを伝えるようにしました。

市町より

「通知のみだとほとんど参加意向の連絡がないが、電話勧奨を行うことによって参加者の増加につながった。」「今後も継続していただけるとありがたい。」等の感謝の言葉をいただいています。



利用勧奨当日の様子

その他の在宅保健師会活動関連

1. 都道府県在宅保健師等会全国連絡会

2月にDVD等の動画配信及び資料のデータ送付により都道府県在宅保健師等会全国連絡会が開催されました。

内容は、「地域保健施策を取り巻く国の動向について」と題した講演の他に、青森県、石川県の在宅保健師等会の事例発表となっています。視聴希望の会員は、ぜひ事務局までご連絡ください。また、令和6年度第1回研修会でも視聴予定となっております。

2. 新型コロナウイルス感染症対策支援お礼状

7月に群馬県知事から、新型コロナウイルス感染症対策への支援のお礼状が「さちの会」宛てに届きました。感謝の言葉と引き続きの協力のお願いが記載されていました。

おめでとうございます！



瑞宝双光章受賞

東毛ブロック 小川 恵子さん

令和5年秋の叙勲に際して、はからずも瑞宝双光章拝受の栄に浴したことは大変光栄なことと感謝しております。主に保健福祉医療の分野で県職員として、38年間携わって参りました。受賞は共に目標に向かって、日夜業務に真剣に取り組んだ上司、同僚、関係団体の方々のご指導ご支援のおかげと感謝しております。そして家族の理解と協力があつたこと。

今後も地域の中で人々の健康支援ができること、家族と自分自身の健康維持に努め、明るく楽しく元気よく過ごして参りたいと思います。



元群馬県生活文化部長
元群馬県看護協会長
小川恵子

会員活動状況アンケート結果

1. 現在の就労状況

送付52名/返送44名 (回収率84.6%)

常勤	非常勤	勤務していない	その他
5人	12人	25人	2人

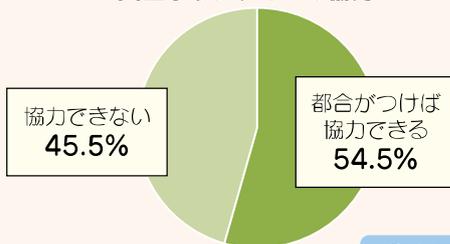
2. 業務内容 (複数回答あり)

母子保健	健康増進	特定健診・特定保健指導	感染症対策	介護予防	産業保健	学校保健	その他(*)
4	4	4	4	1	3	1	8

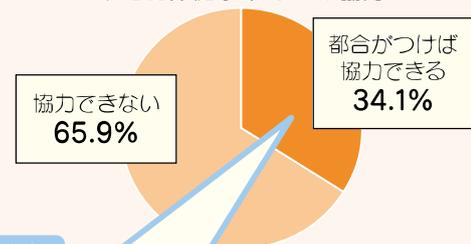
その他(*)：国保連合会2名 こども園、看護協会、精神相談、DV相談…各1名 未回答2名

3. 災害ボランティア・市町村保健事業等への協力

災害ボランティアの協力



市町村保健事業等への協力



協力可能な事業 (複数回答あり)

新型コロナウイルスワクチン接種に係る業務 (問診等)	10
新型コロナウイルス感染症対策関係業務 (保健所支援)	7
特定保健指導未利用者に対する電話勧奨	9
重複服薬適正化事業に係る訪問指導	3
未回答	1

4. ボランティア活動状況

活動している	活動していない	未回答
17名	25名	2名

活動内容：介護予防サポーター、サロン、更生保護女性会、民生児童委員、地域ボランティア、健康推進員、食生活改善推進員、高齢者への訪問、自治体関係、ふれあいの居場所づくり、生命の貯蓄体操、精神ボランティア、視覚障がい者支援、ファミリーサポーター、観光ボランティア、緑のインタープリター会、地域花植

令和5・6年度役員及び世話人

2年間よろしくお願いします。

会長	武政 礼子	世話人	佐々木 かほる
副会長	土屋 和子		鬼形 イシ子
副会長	丸山 律子(事務局)		尾池 政江
幹事	高山 陽子		
幹事	市毛 千鶴子		
幹事	川島 佐枝子		
幹事	高橋 好美		



令和5年度「さちの会」会員

総数 52名

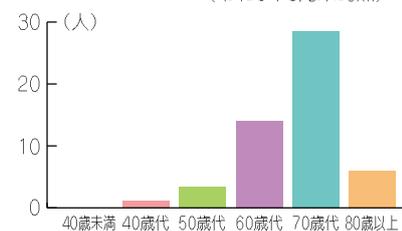
内訳 中・北毛ブロック 25名
西毛ブロック 9名
東毛ブロック 18名

群馬県在宅保健師「さちの会」年齢構成

平均年齢 71.7歳

年代	人数(人)
40歳未満	0
40歳代	1
50歳代	3
60歳代	14
70歳代	28
80歳以上	6
合計	52

(令和6年3月末時点)



令和6年度総会・第1回研修会(予定)

日時：令和6年5月15日(水)
午後1時30分～午後4時

場所：群馬県市町村会館 5階501研修室

総会

【認定事項】

令和5年度群馬県在宅保健師「さちの会」事業報告、歳入歳出決算について

【議決事項】

令和6年度群馬県在宅保健師「さちの会」事業計画、歳入歳出予算について

第1回研修会

令和6年度都道府県在宅保健師等会全国連絡会DVD視聴



新しく入会してくださる方を随時募集しています。

保健師の資格をお持ちの方で、在家庭や非正規雇用などの方をご紹介ください。
お問い合わせは事務局まで。
お待ちしております。

群馬県在宅保健師「さちの会」会報さち 第24号

発行 令和6年3月
発行人 武政 礼子
事務局 群馬県国民健康保険団体連合会
保健事業課
〒371-0846 前橋市元総社町335-8
(群馬県市町村会館内)
電話 027-290-1325
FAX 027-254-3289
E-mail hoken@gunmakokuho.or.jp

編集後記

感染症流行前のような活動ができるようになり、研修会等へもたくさんご参加いただき充実した1年だったと感じています。会員の皆様とお会いし、お話しできたことは事務局も嬉しく元気が出ました。今後も保健活動のお役にたてるよう頑張っていきたいと思っております。(事務局一同)